

うたと平和とそして希望と

男声合唱団「昂」・関西紫金草合唱団

10周年コンサート

《友情出演》

*

全国の「紫金草物語」を歌う合唱団

奈良紫金草合唱団

東京紫金草合唱団

府中紫金草合唱団 ヴィオレッティ

千葉から愛と平和を！合唱団

金沢紫金草合唱団

合唱団エガンス(広島)

*

合唱団 TERRA

2010.4.25 sun

NHK大阪ホール



ごあいさつ

実行委員長 渡辺 武

コンサートにご来場の皆様、本日はほんとうにありがとうございます。男声合唱団「昴」と、関西紫金草合唱団がそろって今年結成10周年を迎えられ、合同で10周年コンサートを開催されることになりました。二つの合唱団は創立メンバーに重複者も多く、仲の良い双子の兄弟のように支え合いつつこの日を迎えられたということで、それぞれの旺盛な活動を身近に見聞しつづけてきた者の一人としても、まことに喜ばしい限りです。

二つの合唱団はともに、平和と希望に満ちた世の中をつくり上げるために、歌声をとおして連帯の輪をひろげようという共通の情熱にあふれた、何よりも歌好きな人々の集まりです。この情熱と行動力は、指揮者、伴奏のピアニストと一体のもので、まことに目を見張らせるものがあります。

日本のうたごえ祭典コンクールで度々一位二位をかちとった「昴」の実力は、大阪での四度にわたる大規模コンサートでも遺憾なく発揮され、男声合唱独特の腹にしみわたる力強い歌声と人生の喜怒哀楽の表現が聴衆の心をしっかりとらえました。

関西紫金草合唱団の活動は、国内はもとより、来年七回目を迎える南京・北京・上海などへの精力的な訪中公演により、民衆レベルの日中友好と平和の促進に大きな貢献をされています。「紫金草物語」上演などを重ねることで、日本軍による大虐殺で反日感情の格別強かった南京市民の心をしだいに変化させたとお聞きするにつけ、「うたごえは平和の力」ということを実感します。10周年を励みに、それぞれの合唱団がさらに前進を続けていかれませうよう念願してやみません。

(元大阪城天守閣館長)

<メッセージ>

紫金草合唱団の皆様、「昴」男声合唱団の皆様

南京市人民対外友好協会 副会長 孫 文学 2010年3月

新緑の美しい季節に、この度は皆様が大阪NHKホールでコンサートを開催することで、誠におめでとうでございます。心からお祝いを申し上げます。

光陰は矢の如し、紫金草合唱団がはじめて南京に公演に来られて以来、あっという間に10年が過ぎてしまいました。この10年間に日中関係もいろいろあって、あまり平穏ではなかったようですが、でも「紫金草」があるから大丈夫でしょうと、いつも皆様に勇気付けられた感じがします。

南京では「紫金草」の組曲を聴いたり、あるいはこの話を知っている市民が多くいるからです。この取組みを通じ南京の市民は、「日本にも歴史を正視し、平和を愛して日中友好を大事に思っている国民が多くいる」事実を知ったのでしょうか。これは日中関係にとっては、大変有意義なことです。

また、過去5年間に、「将来を担う南京の大学生に歌を歌って聞かせよう」という皆様の熱意で、南京の諸大学でも公演を行ってきました。この行動はまさに友好の種を蒔くことです。平和と友好の実を収穫する時期が必ず来ると信じております。春になると、南京では色んなところで紫金草の花が満開しています。美しい花を見ながら、皆様の大阪公演の大成功を心から祈念しております。

PROGRAM

司会/ 合志 薫 鶴丸咲子 村上りつ子 杉原亮太

プロローグ

春をまつ 組曲「雪明かりの路」第1曲 伊藤 整/作詩 多田武彦/作曲 土肥永津子/ピアノ編曲
ふきのとう 林 学/作詞・作曲 林 光/編曲
たんぽぽ 星野富弘/作詩 平野淳一/作曲
指揮 本並美德 ピアノ 近藤 静 合唱 男声合唱団「昴」

第1部 合唱朗読構成「紫金草物語」

大門高子/作詞・構成 大西 進/作曲 山下和子、張 勇/編曲

第1章 大地の花野	第2章 野の花物語	第3章 戦場へ
第4章 人間から	第5章 村の広場で	第6章 南京レクイエム
第7章 雨の紫金山	第8章 どう伝えたら	第9章 花咲か
第10章 花によせて	第11章 人間として	第12章 平和の花 紫金草

《ソロ》兵士・千秋昌弘 ソプラノ・三上佳世子 少女・田中牧子 《ナレーション》藤井文子

指揮 本並美德 ピアノ 山下和子 二胡 鳴尾牧子
合唱 関西紫金草合唱団 全国の「紫金草物語」を歌う合唱団

..... 休憩

第2部 男声合唱団「昴」

シルクロード 喜太郎/作曲 本並美德&林保雄/編曲 《ソロ》富樫龍一 千秋昌弘
鶯 ファチャーノフ/作詞 セドイ/作曲 東大音感合唱研究会/訳詞
鶴 R.カムザトフ/作詞 Ya.フレンケリ/作曲 L.リツベンコ/編曲 坂山やす子/訳詞
アンチェインドメロディ ハイザレット/作詞 フレックス・ノース/作曲 檀美知生/編曲
埴生の宿 里見 義/訳詞 H.R.ビショップ/作曲 増田順平/編曲
大きな古時計 保富康午/作詩 H.C.ワーク/作曲 大竹くみ/編曲
《ソロ・四重唱》山本鈞郎 若園達雄 長屋正義 三村千晴
なぜ 林 光/作詞・作曲
ねがい 佐藤 信/作詩 林 光/作曲
I've got Six pence 福永陽一郎/編曲 古荘雄二/訳詞 土肥永津子/ピアノ編曲
指揮 檀 美知生 / 本並美德 ピアノ 近藤 静

第3部 テノールソロと混声合唱のための組曲「無言館」 〈大阪初演〉

村嶋由紀子/作詞 高平つぐゆき/作曲

第1章 無言館	第2章 希望の絵	第3章 弟よ
第4章 還らぬ若人	第5章 いのちへの伝言	

ソロ 檀 美知生
指揮 本並美德 ピアノ 青山洋子
合唱 男声合唱団「昴」 関西紫金草合唱団 奈良紫金草合唱団 合唱団 TERRA

男声合唱団「昴」10年のあゆみ

15歳のとき、少年義勇軍に志願した現「昴」の藤後団長は満州に渡り、敗戦を迎えました。そしてあわやシベリア送りというとき、たまたま聞いたロシア兵の男声合唱に魂を揺さぶられました。その思いが実を結び2000年に「昴」が誕生したのです。それ以来の団員は増えつづけ今日45名の団に成長しました。日本のうたごえコンクールでは、毎年上位に入賞し、平和を歌い、人生を歌う男声合唱団として演奏活動を広げています。2008年には「人間の尊厳をうたうコンサート」をザ・シンフォニーホールで開き、2009年には中国南京で平和友好の公演を行いました。

●2000年20名で団結成 ●2002年日本のうたごえ福岡祭典コンクール1位 ●2003年日本のうたごえ長野祭典3位 ●2004年ファーストコンサート ●同日本のうたごえ沖縄祭典1位 ●2005年日本のうたごえ広島祭典1位次席 ●2006年セカンドコンサート ●同日本のうたごえ福井祭典2位次席 ●2007年春をよぶコンサート ●同日本のうたごえ奈良祭典銀賞 ●2008年ザ・シンフォニーホールで4thコンサート ●2009年春をよぶコンサート ●同南京平和と友好のコンサート



2008年4月 ザ・シンフォニーホール4thコンサート

関西紫金草合唱団10年のあゆみ

昭和12年、日本軍の中国侵略により南京大虐殺が行われ、その惨状を見た衛生兵の山口誠太郎さんは、このような戦争が再びないようにとの思いを込めて、南京紫禁山に咲いていた野草（日本名むらさき花だいこん）の種を日本に持ち帰り、平和の花「紫金草」と名付けて日本中に広めました。この実話が絵本や歌に創作され、中国南京・北京・上海での6回の平和友好の公演をはじめ、国内でも60回、3万人の人びとの前で歌ってきました。



2003年12月第3次南京文化芸術センター公演

●2000年団結成 ●2001年第1次南京、第2次北京公演 ●2002年大阪母親大会出演 ●同全国教育のうたごえ祭典出演 ●同大阪赤旗まつり出演 ●2003年第3次南京公演 ●2004年第4次北京公演 ●同日本のうたごえ沖縄祭典出演 ●2006年第5次南京公演 ●2007年枚方九条の会出演 ●同日本のうたごえ奈良祭典出演 ●同第6次南京・上海公演 ●2008年奈良紫金草合唱団ファーストコンサートに友情出演

組曲「無言館」大阪初演にあたって

戦没画学生の慰霊美術館をテーマにした組曲『無言館』は、うたごえ運動1期生檀上さわえの構想により、檀 美知生ソロリサイタルのため、作詞村嶋由紀子・作曲高平つぐゆきにより書き下ろされた、スケール大きな反戦平和の < ソロと合唱 > による感動の組曲です。昨年、檀のソロと合唱団TERRAの合唱で神戸初演、続けて仙台初演・東京初演と全国で反響を呼び、本日の大阪初演を多数の合唱とともに迎えます。



長野県上田市「無言館」

PROFILE

◆指揮 本並^{よしのり}美德

1941年大阪生まれ。日本専売公社に勤務しながら、1961年より関西合唱団に参加。現在男声合唱団「昴」、関西紫金草合唱団、レインボーコーラス、ロシア民謡合唱団「コスモス」、奈良紫金草合唱団、とよの合唱団を指揮。作曲・編曲も手がける。ピアノ調律技術者。大阪音楽大学サテライト・マスターコース合唱指揮者コース終了。大阪ハイリッヒ・シュッツ合唱団に所属、2回のドイツ公演にも参加。現在大阪コレギウム・ムジクム後援会「シュッツの会」会員。関西音楽舞会会員。日本調律師協会会員。日本ユーラシア協会会員。日中友好協会会員。



本並美德



檀 美知生

◆テノール・指揮 檀 美知生

早稲田大学合唱団の正指揮者として「全国学生のうたごえ」の先頭に立ち活躍。卒業後日本IBMに就職し、ビジネス活動と並行してTERRAを創立。大震災後、活動の根拠地として「TERRAホール」を芦屋に設立。コーラスミュージカルの主役・指揮者としても、また声楽家として3回のリサイタルを行うなど活躍。檀上さわえ・金光良美に師事。現在「昴」のヴォイストレーナーと指揮も務めている。

◆ピアノ 山下和子

武蔵野音楽大学卒業。室内楽やオーケストラとの協奏曲共演。独奏、伴奏等で多くの演奏会に出演してきた。現在、出張コンサートをするアンサンブル・グループ「ぶるーむ・むじーく」のピアニストおよび編曲者、ぶるーむ音楽館「うたひろば」のピアニストを務める。また合唱伴奏では関西紫金草合唱団のほか、ロシア民謡合唱団コスモス、女声合唱団レガータ、河南混声合唱団の伴奏者を務めている。

◆ピアノ 近藤 静

ウィーン市立音楽院ピアノ演奏科卒業。ディプロム取得。これまでに金澤奈津子、(故)金澤益孝、田中伴子、イェルク・デームスら他各氏に師事。2003年滋賀県フィガロホールにてリサイタル。2004年いずみホールにてベートーヴェンのピアノ協奏曲《皇帝》を、関西フィルハーモニー管弦楽団と共演。2006年フェニックスホールにてリサイタルの他、数々の演奏会でソリストとして、また室内楽、声楽の伴奏者として活躍。音楽関係の通訳者としても活動。2005年秋より男声合唱団昴のピアノ担当。

◆ピアノ 青山洋子

大阪音楽大学器楽科卒業。鳴門教育大学大学院科領域教育専攻芸術系(音楽)コース終了。ポーランドクラクフ室内管弦楽団とコンチェルト共演。マレーシア開催交流チャリティコンサート出演。現在百合学院高等学校非常勤講師。

◆二胡 鳴尾牧子

95年北京に留学、中央音楽院で二胡を学ぶ。96年帰国後、演奏活動を開始。数少ない日本人二胡奏者として、伝統を踏まえつつ独自の感性で演奏活動を展開する。二胡を聶靖宇、王永徳等著名な教育家に師事。06年第1回中国音楽国際コンクール民族楽器部門特等賞。07年第8回大阪国際音楽コンクール民俗楽器部門エスポール賞等受賞。08年5月上海之春二胡コンクールのエキシビジョンにて日本人演奏家として招待演奏。

◆合唱団 TERRA

檀 美知生、村嶋由紀子の主宰する合唱団TERRA(テラ・地球の意味)は、昨年20周年を迎え、メッセージ性を大切にする新作品を毎年意欲的に生み出しつづけている合唱団である。平和・震災復興・環境保全など今日的な庶民の願いを大切に込めた、団の座付き脚本家・作詞家である村嶋の作品に、作曲委嘱したオリジナル曲は190曲にも及ぶ。作曲は井上鑑や寺島尚彦など一流の作曲家たちであり、その中でも高平つぐゆき作曲・村嶋由紀子作詞のコンビで生み出された名曲は震災組曲『めぐる春』など多数ある。またTERRAは「コーラスミュージカル」という世界に類のない合唱・芝居・ダンスの総合芸術をも生み出し、本日のステージでダンスや司会でも団員が活躍している。

合唱団・出演者

男声合唱団「昂」

*テノール 池田垣二郎 伊藤 知 立川孝信 田中寛二 檀 美知生 千秋昌弘 中谷清一 樋渡 誠 山本直一 吉田雄三 若園達雄
*セカンド 岩本廣便 奥村克美 醍醐俊夫 高田和弘 佃 裕司 寺脇伸育 西村 勲 馬場 宏 山本釦郎 米川 勲
*バリトン 岩崎和男 岡邑洋介 栗栖喜代美 清水恭太郎 新納義夫 寺尾正明 仲谷増広 長屋敏郎 長屋正義 野村雅昭 橋本邦久 林 弘訓
*バス 浅井和夫 石橋章一 乾 正明 相根義治 佐藤睦紀 土井一正 藤後博巳 富樫龍一 西島国介 はが 武 三村千晴

関西紫金草合唱団

*ソプラノ 岩橋ひで子 奥谷道代 塩見順子 進藤 路 中矢可奈 兵頭孝子 福井良江 三上佳世子 八木富子 矢野笑子 吉本昭子
*アルト 石束啓子 瓜生信江 相根さかゑ 高元豊子 田代 幸 田中牧子 田原順子 藤井文子 古藤玲子 村井昌子 山中受以子
山本コズエ 吉村昌子
*テノール 池田垣二郎 石川 澄 伊藤 知 奥村克美 佐々木雅博 千秋昌弘 中篤 眞 仲谷増広 馬場 宏 三谷 卓 吉田雄三
*バス 浅井和夫 石橋章一 岡邑洋介 川本健三 衣川洋一 相根義治 寺尾正明 土井一正 はが 武 藤後博巳

奈良紫金草合唱団

*ソプラノ 声原美紀子 片山セツ子 後藤由紀子 佐藤和子 佐渡ふくみ 塩見順子 中島千浪 平井 史 広瀬久美子 柚木弘子
*アルト 岩田ミエ子 大島善子 木瀬松菊 清水愛子 東久保悦子 山田香代子
*テノール 赤井孝十四 北井則夫 児玉道宏 鳥井克之 中沢俊昭 馬場 宏 平井富勝
*バス 掛川貞省 清水恭太郎 長屋敏郎 馬場 功

東京紫金草合唱団

*ソプラノ 浅子保子 飯島美枝子 白木美枝 村松千枝 山本美恵 *アルト 久保公子 寺田京子 外山雅美 溝口絹子 宮前やす
*テノール 石川喜代治 大門康睦 *バス 石丸貞冬 遠藤啓一

府中紫金草合唱団 ヴィオレッティ

*ソプラノ 今井治江 来住野すみれ 近藤洋子 榛葉文枝
*アルト 桐山喜代子 津田みどり 中村茂美 武藤百合子 渡辺あつ子 *テノール 加治彰之

千葉から愛と平和を!合唱団

*ソプラノ 岡阿弥弘子 北田香代子 高嶋みゑ子 三登美保子 *アルト 飯田啓子 石川律子 山岡みや 吉沢ます江 渡邊智恵子

金沢紫金草合唱団

*ソプラノ 熊沢 栄 中川律子 奈良良子 山野下とよ子 *アルト 大森和子 加藤玲子 黒川由美子 杉尾陽子 中原瑞子 村上凜子
*テノール 中野 徹 *バス 板坂洋介 中村昭一

合唱団エガンス(広島)

*アルト 坪倉民子 三川浩子 *テノール 高田龍治 *バス 三川三郎

合唱団 TERRA

*ソプラノ 大倉啓子 藤原千尋 村上りつ子 庄野宏子 野村恭子 大森道代 貞松真美子 小林康世 堀 弘子 島津美子 米澤千加代
長井千恵美 長井ゆめ
*メソソプラノ 村嶋由紀子 栗山まゆみ 荒川雅子 三宅のぶこ 上野安代 大安美知恵 大石沙佑里 石井園子 竹中裕子
*アルト 合志 薫 中島悦子 近野江美子 渋谷淳代 永井弓美 三宅祐可子 鶴丸咲子 合志 藍 川野奈美枝 中川志津子 金岡晴子
*テノール 檀 美知生 杉原亮太 松本圭司 近藤重雄 児嶋祥継 田中偉夫 小谷眞一
*バリトン/バス 小手川 哲 山本 純 波多江芳樹 藤本 誠 山下清隆 山下達也 八木原祐亮

男声合唱団「昂」

- 練習 第1・3・5金曜午後6時。第3・5日曜午後2時
- 会場 ねむかホール 地下鉄谷町線・谷町6丁目③出口南へ徒歩3分。新谷町第2ビル3階308号
- 団費 月2500円
- 連絡 立川孝信 (090-6058-5652) 本並美德 (090-9270-2971) 藤後博巳 (072-125-3482)

関西紫金草合唱団

- 2011年3月に「紫金草物語」で第7次中国訪問。また同年紫金草独自のコンサート「荒木栄の歌」を予定。
- 練習 第2・4金曜午後6時30分
 - 会場 ねむかホール 地下鉄谷町線・谷町6丁目③出口南へ徒歩3分。新谷町第2ビル3階308号
 - 連絡 岡邑洋介 (TEL・FAX06-6998-9260 携帯 090-8168-9347)

団員募集

春を待つ

作詞 伊藤整 作曲 多田武彦
Piano 編曲 土肥永津子

ふんわりと 雪の積った山陰から
冬空が きれいにきれいに 晴れ渡っている
うっすら寒く 陽は暖かい
日向ぼっこする 睫の先に ぼっと 春の日の夢が咲く
しみじみと 陽の暖かさは 身にしむけれど
真白い雪の山こえて 春の来るのはまだ遠い

ふきのとう

作詞 林学 作曲 林学 編曲 林光

ふきのとう ふきのとう ひとつ芽を出した
短い足で背伸びする あれは妹よ
冷たい風で 目を覚まし 首をすくめた ふきのとう

ふきのとう ふきのとう ふたつ芽を出した
白い帽子を夢に見た これは私だよ
帽子は白い雪の山 首をすくめた ふきのとう

ふきのとう ふきのとう みつつ芽を出した
朝日が少し暖かい あれは母さんよ
深い雪の吹き溜まり 丸い背中の ふきのとう

ふきのとう ふきのとう あとは何処に居る
暗い朝の雪明り あれは父さんよ
歩いていった雪の道 大きな背中の ふきのとう

たんぼぼ

作詞 星野富弘 作曲 平野淳一

何時だったか 君たちが 空を飛んでいくのを見たよ
風に吹かれて 君たちが飛ぶのを見たよ
ただひとつの物を持って 旅する姿が
うれしくて ならなかったよ
人間だって どうしても 必要な物は ただひとつ
私も 余分な物を捨てれば
空が飛べるような 気がしたよ

シルクロード

作曲 喜太郎 編曲 本並美德 林保雄

遠き道を たずね来て 歌え 旅人よ
異国の空も 故郷の空も 透き通る
風の中で 光る青さよ
ひとつに連なる大地の歌よ
いにしえ人が 命をかけて 築いた道よ
この道を 踏みしめて行くよ
諸人 喜び 悲しみ 互いに背負い
安らぎの国を目指し 歌え踊れよ
未来に広がる ひとつの道

鶯(前線にも春が来た)

作詞 A.ファチャーノフ 作曲 V.ソロヴィヨフ=セドイ
訳詩 東大音感合唱研究会

春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな
来たよ春が来た 前線にも春が来た
だけど勇士らは 眠らず聞き入る
たたかいを忘れ 歌ううぐいすに

春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな
うぐいすは 春をひとり歌ってる
勇士たちは今 懐かしい声に
遠いふるさとを 眠らずに思う

春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな
休む勇士らよ あすもたたかいへ
愛する妻残し 遠く離れても
勝利はまじかに 帰る日も近い
春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな

鶴

作詞 R.ガムザトフ 作曲 Ya.フレンケリ
編曲 I.リツベンコ
訳詩 坂山やす子 男声版編曲 本並美德

私はふつと思う 傷つき帰らぬ兵士ら
異国の土に眠り いつしか白い鶴に
鶴は昔から今も 訪れては声伝う
それゆえか いつも切なく 声もなく 空見守る

日暮れの霧の空を 疲れた渡り鳥飛ぶ
あの列の中の 隙間は もしや 私のために
やがて 鶴の群となり 青い夕もやを 飛び立とう
大空へ 鶴の言葉で 世の人々 しのびつつ

埴生の宿

訳詩 里見義 作曲 H.R.ビショップ 編曲 増田順平

埴生の宿も わが宿 玉のよそおい うらやまじ
のどかなりや春の空 花はあるじ 鳥は友
おお わが宿よ たのしとも たのもしや

文読む窓も わが窓 瑠璃の床も うらやまじ
きよらなりや 秋の夜半 月はあるじ 虫は友
おお わが窓よ たのしとも たのもしや

大きな古時計

作詞 保富康午 作曲 H.C.ワーク 編曲 大竹くみ

大きなのっぽの古時計 おじいさんの時計
百年いつも動いていた ご自慢の時計さ
おじいさんの生まれた朝に 買ってきた時計さ
* 今はもう動かない その時計
百年休まずに ちくたくちくたく
おじいさんと一緒に ちくたくちくたく
今はもう動かない その時計

何でも知ってる古時計 おじいさんの時計
きれいな花嫁やってきた その日も動いてた
うれしいことも 悲しいことも みな知ってる時計さ
* くりかえし

真夜中にベルが鳴った おじいさんの時計
お別れの時が来たのを 皆に教えたのさ
天国へのぼるおじいさん 時計ともお別れ
* くりかえし

なぜ?

作詞・作曲 林光

溶けてよじれた一升びん
あなたたちの 東の間の宴のあと
とつくに底をついた このクニの台所
やっとなりに入れた酒くみかわし
あなたたちは何を語りあったのか

禁じられた母のコトバを
きょうばかりはおもいきり話したか
むりやり捨てさせられたナマエで
たがいに呼びあったのか
うばわれたクニを思い
クニをとりもどすその日を夢みたか

その日は 光よみがえる祭
タイコとどろきカネがひびき
白い服が蝶のように
町を村を舞い踊る

十日ののちにやってくる その日をまたず
あなたたちは べつのおそろしい光に 灼かれた

クニとナマエとコトバをとりもどした
あなたたちの兄弟は
だが このクニで まだ本当の安らぎを得てはいない
溶けてよじれた一升びんは わたしたちにうったえる
溶けてよじれた一升びんは わたしたちをといつめる

なぜ?

ねがい

作詞 佐藤信 作曲 林光 編曲 男声合唱団「昴」

小さな川に 赤い花 流そ
岸边に咲いた 名も知らぬ願い

揺れる川面に 冬の空 映る
流れていくよ もうひとつの願い

小石を拾う 若もの ひとり
気づかず踏んだ 待ちつづけた願い

暗い水底 凍える 夜に
蒼ざめ沈む 忘れられた願い

小さな川に 赤い花 流そ
明日もひとつ 赤い花 流そ

UNCHAINED MELODY

作詞・作曲 H.Zaret & A.North

Oh my love My darling
I've hungered for your touch A long lonely time
And time goes by So slowly
And time can do so much Are you still mine ?
I need your love I need your love
God speed your love to me

Lonely revers flow To the sea , to the sea
To the open arms of the sea
Lonely revers sign Wait for me , wait for me
I'll be coming home wait for me

Oh my love My darling
I've hungered for your touch A long lonely time
And time goes by So slowly
And time can do so much Are you still mine ?
I need your love I need your love
God speed your love to me

I've got Six Pence (水夫の労働歌)

編曲 福永陽一郎 訳詩 古荘雄二
ピアノ編曲 土肥永津子

やっただぜ ロクペンス うきうき ロクペンス
掴んだ ロクペンス 命の綱さ
ちよっぴり使って 貸しちややんね
かかに送ってやろう なあにも心配はない
裏切る女もいない 王様になった気分で 家に帰れるぞ
帰ろう家へ 光る銀貨を握りしめ
最高の日は給料日 家に帰れるぞ